

声明文 黒川分村遺族会 について

白川町議会議員・藤井宏之氏（旧黒川開拓団遺族会会長）に対しては、集英社及び平井美帆より連名で真摯かつ長文の回答を二回送付させていただいている。それにもかかわらず、藤井氏は、当該声明文を恒久的にインターネットにあげることにより、一方的な主張を拡散し続けている。かつ、藤井氏からは当該声明文のほか、水面下でさまざまな攻撃を受けたため、わずかながらの反論を残しておきたい。

『ソ連兵へ差し出された娘たち』において、私は不誠実な取材などしていない。藤井氏は、私に取材源秘匿権があるのに乗じ、私との二者間における不都合な事実は周囲に話していないと危惧される。他方で、あの手この手で圧力をかけ、本作品に関して、藤井氏の望むとおりに変更させようと試みてきた。また、藤井氏は私が信頼関係を築いた被害当事者らに、事後的に接触し、その情報を再発信させてもきた。

藤井氏とは取材者・被取材者の関係ではなく、長い経緯のなかですでに信頼関係は破綻している。仮に破綻していなかったとしても、書き手である私が、黒川開拓団の人身取引・性暴力問題に利害関係の強い「遺族会（長）」の意向通りに執筆することはない。私の取材資料・取材源は多数の人から得ており、特定の情報源だけに依拠してはいない。

性被害当事者の視点を主軸に置いた本作品は、集団・組織内の人身取引における複雑な構造を明らかにし、現代に通じる諸問題を浮かび上がらせたものである。そして、被害当事者らが直接的・間接的に我慢を強いられてきたのは、世間の偏見というよりはむしろ、同じ集団にいた者たちとの関係性にあったことはあらためて述べておきたい。

本作品の内容は、日本社会の平和と平等の実現に貢献し、とりわけ性暴力被害に遭った女性・子どもの人権・名誉回復を考えるうえで極めて重要であると私は心から信じている。その歴史的意義は広く読者に委ねたい。

令和5年2月1日

平井 美帆